第 2013-11 号

恵みと真理のニュース

2013 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　切に祈って答えられました。

父が篤実な信者として主日学校の奉仕をしました。それで私も子供のころから父に付いて頑張って教会に通いました。
子供の時は説教を全部理解するのは難しかったですが教会に行って礼拝を捧げることが楽しかったです。先生から教えられる賛美と振り付けも楽しくて特に遊びながらおいしいおやつも食べプレゼントももらう夏の聖書学校が毎年楽しみでした。たまにはソウルの大きい教会から田舎の私たちの教会に来て夏の聖書学校も行ないました。キリスト教の映画も見せながら大きい感銘も受け信仰の義人たちを見習って私も大きくなると素晴らしい信仰者になろうと決心しました。
どころが　その当時母はイエス様を信じませんでした。それで生活の中で母といろいろぶつかってイエス様を信じない母がとてもかわいそうで祈りました。また教会に一緒に行こうと誘いましたが母の心は少しも開きませんでした。中高等部に入ってから聖歌隊で奉仕をして教会で行なうキャンプにも参加して信仰が成長する共に内気な性格も明るくなり積極的になりました。聖霊に満たされるため期間を決めた祈りも参加して毎晩熱心に祈り聖霊洗礼も受けました。私なりの信仰生活を頑張ってやっていると思いましたが母を考えるといつも心が重くって母が早くイエス様を信じ救われるように切に祈りました。
高校を卒業して職場生活のためソウルに来ました。最初は開拓教会を通いましたがその教会が他の所に移転して他の大きい教会の主日学校で奉仕を始めました。母が救われるため祈りしながら私の結婚のためにも祈りました。信仰の配偶者に出会えるように祈りました。母のように家族を伝道をすることは難しいことを悟ったので信仰ある男と結婚して礼拝中心の生活し奉仕したかったです。そのころ遂に母が教会に通う始めました。その話しを初めて聞いた時喜びと感激でなんとも表現できませんでした。神様が私の信仰と長い間祈った祈りに答えてくださり家庭の福音化の祈りも答えてくださったのです。そして結婚のため私が祈った祈りのとおり神様の摂理で私の願いが遂げられました。
主日学校で奉仕しながらある執事さんの紹介で職業軍人である主人に出会いました。初めは肌も黒くって無口な人だったので断りましたが一回、二回に会いながらいろいろ神様が予備してくださった配偶者だと思って結婚しました。どころが結婚して2年が過ぎて3年になっても子供ができなかったです。私はもちろん夫の実家でも心配しました。主人と一緒に病院に行って検査を受けましたが思いがけず私が身ごもることができないと言われました。はじめてその話しを聞いた瞬間理解できなくて信じられませんでした。夫の実家と私の家でも会えることができませんでした。その時、聖書に出る（ハンナの祈り）が思いました。医者から他の方法も考えなさいと慰め話しも聞きましたが、私は他の方法は考えなく祈りしながら治療を受けました。ようやく神様から子供を授かりました。妊娠した話しを医者から聞いた時に世のすべてを得た気分で喜び溢れました。 神様の恵みに感謝を捧げました。夫の実家と私の家族もみんなから喜びで祝ってもらいました。みんな神様は生きていらっしゃると神様は私を愛すると言ってくれました。続いて神様は 尊いプレゼントの 二番目の子供もくださいました。

〈次号に続く〉

[信仰コラム]　半面先生ながらお手本になったヨナ

“ヨナは魚の腹の中からその神、主に祈って、言った、「わたしは悩みのうちから主に呼ばわると、主はわたしに答えられた。わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、あなたはわたしの声を聞かれた。”（ヨナ書 2章）

ヨナは聖書　66冊の中一冊が彼に関して記録しているだけ彼の生涯と活動が私たちに言い表す教訓が大きいとできます. ヨナではイスラエル民が排他的な選民意識に耽っていた旧約時代に予言者ヨナを通じてイスラエルに脅迫的だったアッスルの首都ニヌウェ居民に神様の審判のメッセージを伝えて彼らを救援した事件の記録です. 救援は万民のためのことで神様の愛は世界中に及ぶことなのを明るく現わしています.
神様はヨナにニネベに行って神様の審判を予告して悔改を促すメッセージを宣布しなさいという使命をくださいました. 実に重大な使命でまた栄え栄えしい任務でした. しかしヨナはニヌウェと正反対方向であるタルシシへ逃げようと思いました. ″ニヌウェまであまりにも遠くて険しい旅程だ. 大きくて力強い国の首都へ行って審判のメッセージを伝えることは死にに行くことに違いない. アッスルは絶えずイスラエルを苦しめた国だ.″ ヨナはそれなりに合理的な理由を思い出したはずです. 神様がくださる職務と使命を避けようと思う人はヨナのように自己中心で理解して判断してしまって, 各種役目と理由を作り上げます. 神様の命令に対しては理由を付けてはいけないです.
タルシシへ行く船に乗ったヨナが船の下におりて横になって深い眠りに落ちた時, 神様が大風を海の上に降りたら海の中暴風が吹き荒れて船がほとんど壊れるようになりました. 船員たちはこの暴風が尋常ではなくて独特のものなのを看破して船の中の誰かがある種の大きい罪悪を犯したと判断してその人をくじを引くことに決心したし結局ヨナが抜かれました. 神様の公議の審判が確かさを悟ったヨナは自分の罪を告白しました. ここに船長と船員たちは彼を海に投げました. ヨナは神様が予備しておいた大きい魚にのまれました. ヨナは魚腹の中で苦難の中に恨まないで自分の行為を弁解しなかったし, 神様の容赦と救援を固く信じて祈りました. 神様をずっと思うことで悲観的で否定的な考えが心に席を取ることができないようにして悔改の祈祷, 所望の祈祷, 信頼の祈祷, そして書院祈祷をしました. 神様がその祈祷を聞いて魚に命じて彼を陸地に吐くようにしました. 神様の命令を破れば暗晦の中に処するようになるが悔い改めれば光明で出るようになります.
神様がヨナに二番目命令を下すと彼が今度は素直にニネベに行きました. 前日に不服しても今日神様のお話どおり行ったら神様は前日の過誤を問題視しないです. ヨナはニネベ城に入って行くとまっすぐに神様がくだするお話を叫びました. 神様のお話を自分の理念と思想のフレームの中に入れて変形させてはいけないです. 神様のお話を自分の神学と哲学を主張するための包装と器にする者等によって幾多の魂たちが被害を被っています. ″私が君に命令してるのを彼らに宣布しなさい.″ これは福音伝播の鉄則です. ヨナの叫ぶことを聞いたニネベ民たちは神様を信じて禁食を宣布して太い麻布を着ました. 王も積極的に悔い改める事に加わりました.
お詫びと救援の恩寵はただ神様の主権にあることで信じる信頼と謙遜な悔改を通じてニネベ王とその民は許すことを受けることができました.
神様がヨナに二番目命令を下すと彼が今度は素直にニネベに行きました. 前日に不服しても今日神様のお話どおり行ったら神様は前日の過誤を問題視しないです. ヨナはニネベ城に入って行くとまっすぐに神様がくだするお話を叫びました. 神様のお話を自分の理念と思想のフレームの中に入れて変形させてはいけないです. 神様のお話を自分の神学と哲学を主張するための包装と器にする者等によって幾多の魂たちが被害を被っています. ″私が君に命令してるのを彼らに宣布しなさい.″ これは福音伝播の鉄則です. ヨナの叫ぶことを聞いたニネベ民たちは神様を信じて禁食を宣布して太い麻布を着ました. 王も積極的に悔い改める事に加わりました.
お詫びと救援の恩寵はただ神様の主権にあることで信じる信頼と謙遜な悔改を通じてニネベ王とその民は許すことを受けることができました.
皆さんは自分の中心から神様中心に, 自分の理論と主張で神様お話どおり 180度転換された生活をなさってください. 神様は選んだ者等を遂に信頼と従順の道に進むように導きます. 私たちに半面先生もなって立派なお手本もなったヨナを通じて得た神霊な教訓たちによって皆さんが慰労と激励を得て信仰生活に回復と発展を持って来るようになるように願います.

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

予言を軽んじてはならない

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

“予言を軽んじてはならない”と言う言葉を理解して実践しようとすれば　‘予言’の概念を明らかに分からなければなりません.“未来に起こる事をあらかじめ推し量って言うこと”を予言だと言います. ところで聖書では神様が啓示なさったみ言葉を予言だと言います. そして神様のみ言葉を人々に伝えることも予言だと言います. ペテロ２の 1章 21節に“予言は決して人間の意志から出たものではなく人々が聖霊に感じ神様によって語ったものだからである”と言いました. ヨハネ啓示録を見れば 1章 3節に　“この予言の言葉を読む者と聞く者等とその中記録したことを守る者等がさいわいであると”言いました. そうするので“予言を軽んじてはならない”と言う言葉は聖書に記録された神様のみ言葉を軽んじてはならないと言う意味です.
そして聖書に記録されたみ言葉を解いて教えるみ言葉を軽んじてはならない意味です. 神様のみ言葉である聖書の予言には神様の権威と権能が内在しています. 予言を　軽んじると言って予言の権威と権能が消滅するとか力無くなるとか無用にならないです. 返って予言を軽んじるのはわざわいを自ら招くようになります. それではこれから予言を軽んじるわざを具体的によく見ます.

第一、聖書のみ言葉を信じない事は予言を軽んじるわざで見なされます.

人が聖書のみ言葉を信じることができない理由は神様のみ言葉を自分の経験と知識で判断するからです. ところでこんな論理は理にかなっていない主張です. なぜならば自分の経験と知識が完全だと前提する間違いを犯しているからです. 人の経験と知識にはいつも限界があります.
人間の経験と知識が豊かになるほど聖書に記録されたみ言葉に対する誤解がとけて理解が深くなります. 例えば　いまから 3千余年前に記録された聖書ヨブ記に“彼は北の天を空間に張り地を何もない所に掛けられる”(ヨブ 26:7)と記録されました. ところで人々は長い間地球が平たくて固定されていてその上に空が開かれていることで認識して来ました. 天文学の発展で今日は聖書み言葉どおり地球が宇宙空間に置かれているということを認めない人がいないです.
聖書に記録された予言のみ言葉を神話や迷信のように思って古い教訓で思って不信することは予言を軽んじる態度です.
人が神様のみ言葉を不信するようになる他の理由はサタンが与える疑心を受け入れるからです.
エバはエデン園でサタンの誘うにおちて神様のみ言葉に対する疑心を受け入れて結局には善悪を知る木の実を食べました(窓 3:1～6). 神様のみ言葉を疑って不信することは予言を軽んじるわざです. 人が神様のみ言葉を不信するようになるまた他の理由は世俗的な欲心のためです.
イエス様がおっしゃいました. “この民たちの心が鈍くなりその耳は聞えにくくその目は閉じているから彼らが目で見ず耳で聞かず心で悟らず悔い改めて癒されることがないためである”(マタイ 13:15)人の心に席を取った世俗的な欲望が神様のみ言葉を不信するようにします. 無知と知的な驕慢と疑心と世俗的な欲望は神様の予言を不信するようにして予言を軽んじる要因です.

第二、神様が授ける救いを軽んじるわざは予言を軽んじるわざです.

イエス様の外にも救いがあるという思想を言いふらす団体を弁護して助ける人は彼がイエスキリストだけが救世主だと声を高めて言ってもその言葉は真実性がないしこのような二重的な行動は予言を軽んじるわざです. ヘブル 2章 3節に　“私たちはこんなに尊い大きい救いをなおざりにしてはどうして報いをのがれる事ができようかこの救いは初め主によって語られたものであって聞いた人々から私たちに証したのである”　しました. 救いを示して　“このように大きい救い”と言いました. ヨハネ福音 3章16節に　“神はそのひとり子を賜わったほどにこの世を愛してして下さったそれはみ子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである”　言ったがここでも私たちを救われる神様の愛に対して“このように愛した”と表現しました.
人間の言語ではイエスキリストを下さった神様の愛を充分に現わす方法がないです. 救いの内容を見ればおびただしいです. 罪を許しを受けます. 正義のあるようになります. 聖なります. 神様の子になります. 悪魔の支配から自由するようになります. 将来に来る世の中を治めるようになります. 神様がイエスキリストを送って救贖 使役を果すようにしたし, 聖霊を送って権能を福音傳導者たちを通じて現わしました.
だから救いの福音を無視してことわる事は神様を軽んじる事に違いないです. 救いのみ言葉を軽んじる思うことは予言を軽んじるわざです.

第三、福音を歪曲するわざは予言を軽んじるわざです.

使徒パウロは福音を歪曲する人等に対してきっぱりと宣言しました.“あなたがたがこんなにも早くあなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて違った福音に落ちていく事が私は不思議ではならないそれは福音というべきものではなくただ　ある種の人々があなたがたをかき乱しキリストの福音を曲げようとしているだけの事である”(ガラテや1:6～8).
正常的な教会に通ってからある日急に異端集団に行ってしまう人を見れば変に思われます. 自称神様あるいはキリストあるいは聖霊だと言う人が導く集団に行ってしまう人を見れば変に思われます. 自分たちの集団に入って来ると１４万４千人の数字に入るようになってそれこそだけ救われるという変な声に惑いされる人を見れば変に思われます.
人々を誘引するために偽りされた行動をするようにさせるのにそのまま追従する人々を見れば変に思われます. 似以非異端の教えに付くことは予言を軽んじる行動です. 使徒ヨハネは神様み言葉に違う教訓を伝える者をきっぱりと排斥しなさいと指示しました.
“誰でもこの教えを持たないであなたがたのところへ来るものがあれば彼を家に入れなくてあいさつもないで彼にあいさつする者はその悪い行いにあずかる事になるからである”(ヨハネ２書 1:10,11) しました. 似以非異端に属して行うとか似以非異端を擁護して助ける事をすることは予言を軽んじるわざです.

第四、聖書の言葉にかなわない予言を言うとか神秘体験を宣伝する事は予言を軽んじるわざです.

こんすい状態や夢うつつの中に天国と地獄を見たと言いながら聖書に記録されたみ言葉に適当ではない内容を言う人々がいます. これは予言を軽んじるわざです. 神様は死後世界に対して私たちが分からなければならない位は聖書に啓示してくださいました. 死後世界に対しては聖書に啓示されたことで満足しなければなりません. “あなたは天国があって地獄があるというのを何によって信じますか?”という質問に対する答は一つです. “聖書に記録されているからです.”という返事です. 似以非牧師があります. 似以非信者がいます. これらは自ら神霊なふりをします. そしてイエス様の名前をかこつけて, 聖書句節を巧みに引用しながら占うように予言を言って私利私欲を満たします. こんなわざは予言を軽んじるわざです.

五番目、神様のみ旨に順応しないことは予言を軽んじる態度です.

モセはイスラエル人である親から生まれたが神様の攝理でエジプトの公主の子になって王宮で学問と武技を習いました. モセの年が 40になった時でした. エジプト国で奴隷のように扱われる自分の同族を面倒を見ようと思っている途中エジプト人を殺す事が発生しました. エジプト王の指名手配の対象になったモセは逃げてミデアンの荒野で羊飼いで勤めるようになりました. 歳月が経ってモセの年 80になりました.
ある日モセが羊を導いて市内山すそに至った時火は付いたが燃えない木を見ました. その所に近付くと神様がモセにおっしゃるのをイスラエル民に行って彼らをエジプトで導き出してガナアンで導きなさいと言いました. モセが答えるのを“私が誰だからすぐに行ってイスラエル子孫をエジプトで導き出しますか?”しました.
神様がモセの杖とモセの手に奇跡を現わすように見えました. それでもモセは重ねて遠慮をしたしそうするうちに神様を怒るようにしました.
このような処身は神様のみ言葉を軽んじる態度です. モセは怒る神様の音声を聞いて精神がぴかっと持ちました. その後では神様の指示をそのまま従いました.理解ができなくてもそのまま行いました.
今まで予言が何でそして何が予言を軽んじるわざなのかをよく見ました.
“予言を軽んじるな”と言うみ言葉は“予言を尊敬する思いなさい”と言うみ言葉をつけるわけ強調する表現です.
聖徒の皆さんは予言を軽んじないで, 予言を本当に尊重する姿勢に生きて行くようにお願いします.